

平成29年度 愛知学泉短期シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52316	幼児学ゼミナール I (指導法研究 I) Seminar: Study of Methodology for Infantile Education I	ゼミ担当教員	専門	1	必修	2年 前期

科目の概要

各担当教員がテーマや参加人数を設定し、小グループによるゼミナールを行なう。これは、いろいろな課題に対して自主的に取り組み、1年間を通して研究、実践する科目である。
また、この授業への取り組みを通して、短大2年間の学習を統合し、教育(保育)の実践につなげていく。単位としては I と II に分かれているが、受講するにあたっては、2年次の1年間を通して行うゼミグループでの授業と受け止めて欲しい。

学修内容	到達目標
①いろいろな研究課題に対して、各自が主体的に取り組み、研究・実践する。	①各自の研究課題に対し主体的に取り組めるようになる。
②「幼児学ゼミナール抄録集」や「幼児教育学科研究報告会」にて、報告・発表ができるように素材を集める	②研究成果を報告、発表ために素材を集めることができる。
③「岡崎げんき館」にて子どもたちを実践的に関わる。	③岡崎げんき館での子どもたちとの関わり実践に積極的に取り組めるようになる

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	課題をするのに必要な知識について、教科書・文献を使って自己学修をすることができる。
	働きかけ力	目標を到達するために、自分ひとりではできないとき人の力をかりるための声掛けができる。
	実行力	いつまでに作品を仕上げるための手順や方法を考えて確実に目標に向かって進めることができる。
考え抜く力	課題発見力	思い込みや憶測でなく事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。
	計画力	グループ内で時間内に終わることができるよう手順や役割分担を考えて期限内に完成できるよう進めることができる。
	創造力	物事を考える時に、固定概念に捉われないことと色々な方向から考えることができる。
チームで働く力	発信力	グループ内で文献を検索し知見をまとめ、聞き手に解りやすい発表の仕方(声の大きさ、スピード等)や話すポイントが整理され発表することができる。
	傾聴力	グループワークで、人の意見を確認し、さらに自分の意見を述べるができる。
	柔軟性	グループ討議をする際に自分と異なる意見や価値観を尊重し、柔軟に受け入れることができる。
	状況把握力	自分に割り当てられたことだけでなく、集団の中で自分ができることを考え、目標に向かって協力できる。 自分が行ったことで周囲にどんな影響を及ぼすか考え、最良の結果がだせるよう取り組むことができる。
	規律性	・自分の都合を優先することなく集団のルールを守ることができる。 ・無断欠席、遅刻、居眠り、私語など講義に支障をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	失敗した時や強いプレッシャーで動揺したり、落ち込んだりしても、長く引きずることなく次へ進むことができる。

テキスト及び参考文献

テキスト:各ゼミナールにて提示される
参考文献:なし

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連:すべての科目と関連する。
資格との関連:なし

学修上の助言	受講生とのルール
・学生個人が選択したゼミナールであり積極的な参加や活動が望まれる。	・欠席しないことや学生相互の協力関係が大切である。

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験		①	
		②	
		③	
小テスト		①	
		②	
		③	
レポート		①	
		②	
		③	
成果発表 (口頭・実技)	80	①	✓
		②	✓
		③	✓
作品		①	
		②	
		③	
社会人基礎力 (学修態度)	20	①	✓
		②	✓
		③	✓
その他		①	
		②	
		③	
総合評価 割合	100		

【到達目標の基準】

到達レベル A(優)の基準	到達レベル B(良)の基準
<p>各ゼミでの課題に対して積極的に取り組み、個人やグループにおいて、研究成果や演技表現、活動実践などの具体的なものを達成する。</p> <p>学習習得した知識や技能が保育者として、保育実践の現場で活かすことができる。</p> <p>総合評価 90 以上はS(秀)、89~80 はA(優)</p>	<p>各ゼミでの課題に対して積極的に取り組み、個人やグループにおいて、研究成果や演技表現、活動実践などの具体的なものを達成する。</p> <p>総合成績 79~70</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
	<p>・ゼミナールごとの活動 ゼミ毎に設けられた、それぞれのテーマに取り組んでいく。地域の行事や学泉祭などにおいて企画を立て、参加することもある。</p>	講義・演習	それぞれのテーマに積極的に取り組む。	(予習・復習)各ゼミの課題に応じて予習、復習を行う。	675	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
1週 ～ 15週 / 15週	<p>・岡崎げんき館活動 2～3回の学外活動を行う。 各ゼミにて岡崎げんき館に出向き、「学泉短大のお姉さんと遊ぼう」をテーマに来館する子どもたちと関わる。</p>	演習	子どもたち、楽しく満足できる各事を実践する。 子どもの成長に役立つような活動を行う。	(予習・復習)各ゼミの課題に応じて予習、復習を行う。		主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
	<p>・幼児学ゼミナール抄録集の執筆及び幼児教育学科研究発表会の準備 1年間の各ゼミナールの活動の成果を、小論・レポート等にまとめ、抄録集として後期2月に発行する。 後期2月に、ゼミナールごとにステージで活動の成果を発表する。 学外の関係者や1年生への発表の機会であり、また学生相互が学びあう場でもある。</p>	講義・演習	各ゼミナールの活動の成果をまとめる。	(予習・復習)各ゼミの課題に応じて予習、復習を行う。		主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

各教員による H29年度幼児学ゼミナールのテーマ

- 石川 博章 :「体験・いろいろなものづくり」「岡崎げんき館での造形指導」
 伊藤 照美 :子どものリズム表現遊びと集団遊び
 伊藤 智式 :子どもの遊びを考える
 岡田真智子 :保育の方法を考える「なんでも保育教材になるよ！」
 神谷 典子 :環境の構成と遊びの充実を考えるー身近な教材を利用してみようー
 清原みさ子 :子どもとおもちゃ
 高沢 佳司 :児童心理学の探求
 谷村 和秀 :保育者の役割を深める～楽しさを伝えることは～
 津島 忍 :連弾～聴いて楽しい、演奏して楽しい～
 本多 峰和 :子どもの歌を考えよう

能力名:主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
 ストレスコントロール力

平成29年度 愛知学泉短期シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52317	幼児学ゼミナールⅡ(指導法研究Ⅱ) Seminar:Study of Methodology for Infantile Education Ⅱ	ゼミ担当教員	専門	1	必修	2年 後期

科目の概要

各担当教員がテーマや参加人数を設定し、小グループによるゼミナールを行なう。これは、いろいろな課題に対して自主的に取り組み、1年間を通して研究、実践する科目である。
また、この授業への取り組みを通して、短大2年間の学習を統合し、教育(保育)の実践につなげていく。単位としてはⅠとⅡに分かれているが、受講するにあたっては、2年次の1年間を通して行うゼミグループでの授業と受け止めて欲しい。

学修内容	到達目標
①いろいろな研究課題に対して、各自が主体的に取り組み、研究・実践する。 ②「幼児学ゼミナール抄録集」や「幼児教育学科研究報告会」にて、報告・発表する ③「岡崎げんき館」にて子どもたちを実践的に関わる。	①各自の研究課題に対し主体的に取り組めるようになる。 ②研究成果を「幼児学ゼミナール抄録集」や「幼児教育学科研究報告会」にて、報告、発表ができる。 ③岡崎げんき館での子どもたちとの関わり実践に積極的に取り組めるようになる

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	課題をするのに必要な知識について、教科書・文献を使って自己学修をすることができる。
	働きかけ力	目標を到達するために、自分ひとりではできないとき人の力をかりるための声掛けができる。
	実行力	いつまでに作品を仕上げるための手順や方法を考えて確実に目標に向かって進めることができる。
考え抜く力	課題発見力	思い込みや憶測でなく事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。
	計画力	グループ内で時間内に終わることができるよう手順や役割分担を考えると期限内に完成できるよう進めることができる。
	創造力	物事を考える時に、固定概念に捉われないことなどいろいろな方向から考えることができる。
チームで働く力	発信力	グループ内で文献を検索し知見をまとめ、聞き手に解りやすい発表の仕方(声の大きさ、スピード等)や話すポイントが整理され発表することができる。
	傾聴力	グループワークで、人の意見を確認し、さらに自分の意見を述べるすることができる。
	柔軟性	グループ討議をする際に自分と異なる意見や価値観を尊重し、柔軟に受け入れることができる。
	状況把握力	自分に割り当てられたことだけでなく、集団の中で自分ができていることを考え、目標に向かって協力できる。 自分が行ったことで周囲にどんな影響を及ぼすか考え、最良の結果がだせるよう取り組むことができる。
	規律性	・自分の都合を優先することなく集団のルールを守ることができる。 ・無断欠席、遅刻、居眠り、私語など講義に支障をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。
ストレスコントロール力	失敗した時や強いプレッシャーで動揺したり、落ち込んだりしても、長く引きずることなく次へ進むことができる。	

テキスト及び参考文献

テキスト:各ゼミナールにて提示される
参考文献:なし

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連:すべての科目と関連する。
資格との関連:なし

学修上の助言	受講生とのルール
・学生個人が選択したゼミナールであり積極的な参加や活動が望まれる。	・欠席しないことや学生相互の協力関係が大切である。

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験				
小テスト				
レポート				
成果発表 (口頭・実技)	80	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> 各ゼミナールの担当教員が評価する。 「研究報告会への取り組み」や「幼児学ゼミナール抄録集」、「げんき館での活動」が評価される。
		②	✓	
		③	✓	
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	20	①	✓	(主体性) 課題に取り組むにあたって、必要な知識を教科書・文献を使って自己学修をすることができたか。 (実行力) 一度始めたことは最後までやり切ることができたか。 (課題発見力) 思い込みや憶測でなく事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができたか。 (想像力) 物事を考える時に、固定概念に捉われないことと色々な方向から考えることができたか。 (発信力) 予習や講義での身につけた知識を整理し、的確な文章で表現できる。 (傾聴力) 教員や学生の意見を確認し、さらに自分の意見を述べることができる。 (規則性) <ul style="list-style-type: none"> 授業開始から15分以内に入室した者は遅刻(減点0.5点)扱いとする。 授業開始から15分を超えて入室した者は欠席扱い(減点1点)とする。 ※但し、公共交通機関の遅延による遅刻については遅刻及び欠席扱いしない。(遅延証明書を提出すること) <ul style="list-style-type: none"> 許可なくスマートフォン使用と私語・居眠りで注意されたら減点とする。
		②	✓	
		③	✓	
その他				
総合評価割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベル A(優)の基準	到達レベル B(良)の基準
各ゼミでの課題に対して積極的に取り組み、個人やグループにおいて、研究成果や演技表現、活動実践などの具体的なものを達成する。 学習習得した知識や技能が保育者として、保育実践の現場で活かすことができる。 総合評価 90 以上はS(秀)、89~80 はA(優)	各ゼミでの課題に対して積極的に取り組み、個人やグループにおいて、研究成果や演技表現、活動実践などの具体的なものを達成する。 総合成績 79~70

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 ～ 15週 /	<ul style="list-style-type: none"> ゼミナールごとの活動 ゼミ毎に設けられた、それぞれのテーマに取り組んでいく。地域の行事や学泉祭などにおいて企画を立て、参加することもある。 	講義・演習	それぞれのテーマに積極的に取り組む。	(予習・復習) 各ゼミの課題に応じて予習、復習を行う。	675	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
	<ul style="list-style-type: none"> 岡崎げんき館活動 2～3回の学外活動を行う。 各ゼミにて岡崎げんき館に出向き、「学泉短大のお姉さんと遊ぼう」をテーマに来館する子どもたちと関わる。 	演習	子どもたち、楽しく満足できる事を実践する。 子どもの成長に役立つような活動を行う。	(予習・復習) 各ゼミの課題に応じて予習、復習を行う。		主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
	<ul style="list-style-type: none"> ①幼児学ゼミナール抄録集の執筆 1年間の各ゼミナールの活動の成果を、小論・レポート等にまとめ、抄録集として後期2月に発行する。 ②幼児教育学科研究発表会の準備・発表 後期2月に、ゼミナールごとにステージで活動の成果を発表する。学外の関係者や1年生への発表の機会であり、また学生相互が学びあう場でもある。 	講義・演習	各ゼミナールの活動の成果をまとめる。	(予習・復習) 各ゼミの課題に応じて予習、復習を行う。		主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

各教員による H29年度幼児学ゼミナールのテーマ

石川 博章 :「体験・いろいろなものづくり」「岡崎げんき館での造形指導」
伊藤 照美 :子どものリズム表現遊びと集団遊び
伊藤 智式 :子どもの遊びを考える
岡田真智子 :保育の方法を考える「なんでも保育教材になるよ！」
神谷 典子 :環境の構成と遊びの充実を考えるー身近な教材を利用してみようー
清原みさ子 :子どもとおもちゃ
高沢 佳司 :児童心理学の探求
谷村 和秀 :保育者の役割を深める～楽しさを伝えることは～
津島 忍 :連弾～聴いて楽しい、演奏して楽しい～
本多 峰和 :子どもの歌を考えよう

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

